



ほんのきもち



12月に行われた上ノ加江・矢井賀地域ふくしバザーで活躍する小学生ボランティアのみなさん

災害ボランティアセンターについて学ぼう



昨年十一月に行われた「中土佐町防災学習会」で、災害ボランティアセンターについての周知活動を行いました。

災害ボランティアセンターとは、発災後、日常生活を取り戻すために助けを必要とする困りごとに対しボランティアの力を借りて一日も早く復旧させるものです。その活動には、社会福祉協議会が主となり、災害ボランティア連絡会や行政と連携しながら運営します。



七月の豪雨災害では、町内でも多くの被害があり、町内で初めての災害ボランティアセンターを開設しました。今回は、ボランティアの募集を町内に限定し、活動を行い三十一名のボランティアにより二日間の活動を無事に終えることができました。

災害ボランティアセンターの役割や七月の活動報告を写真やイラストを展示して、紹介をさせていただきました。



来場者からは、「ボランティアセンターの名前は耳にしたことはあるけど、良く知らなかった。」「町内の被害が想像以上だった。」などたくさん感想がありました。

当日は、災害だけではなく町内での活動に参加してもらえボランティアの呼びかけを行い、登録者を増やすことができました。

今後も災害ボランティアセンターに関する情報を発信します。



中土佐町ボランティアセンター・中土佐町災害ボランティアセンター・ボランティア情報等に関するお問い合わせは下記まで

社会福祉法人中土佐町社会福祉協議会内 中土佐町ボランティアセンター(竹田)

電話 0889-52-2058

まんま食堂 年の瀬 弁当づくり



昨年のクリスマスにひとり暮らしの方や高齢の方から事前に注文を請けお弁当を作ってお届けしました。コロナで「まんま食堂」の開催ができず、何かできることはないかとメンバーで考え、一昨年から始めた活動です。今回の配達には、メンバー以外の協力もあり活動の輪を広げることができています。お試し開催で広く周知は出来ていませんが、これからも協力者を増やしながら、「まんま食堂」にできる活動を考え活動していきます。



矢井賀をよくする会は、平成二十一年以降、地域における住民のコミュニティの形成や地域行事への参加など積極的かつ継続的に行ってきました。特に月に二回のモーニングサロンと地元の野菜や加工品の販売を行う「一の市」の開催は、地元住民だけではなく、町内外の方にも大変好評です。住民同士のつながりや心を豊かに暮らしていける地域を目指した「矢井賀をよくする会」の活動が評価され、今回受賞となりました。コミュニティセンターの改修工事が終わればモーニングサロンも再開です。お楽しみに♪

表彰状
小沢孝子様
「はちきん賞」受賞
表彰状
小沢孝子様
「はちきん賞」受賞

第九回 高知の輝くシニア大賞 「はちきん賞」受賞

矢井賀をよくする会 代表 中沢孝子様

ボランティア活動保険について

加入にあたっては、中土佐町社会福祉協議会への登録が必要です。保険期間は加入手続きをした翌日から3月31日までとなっており、いつでも登録できます。（新型コロナウイルスにも対応）中土佐町ボランティアセンターでは、安心してボランティア活動を実施していただけるように、**個人ボランティア**の保険料350円を助成しています。

	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
年間保険料	350円	500円	550円

※補償金額、補償内容等についてのお問い合わせは中土佐町ボランティアセンターまで

地域で活動する団体紹介



今回は、読み聞かせをしてくれている団体の紹介です

久礼地区「親オニの会」



毎週水曜日に久礼小学校で行われている“読み聞かせ”のこの日、3年生の教室では優しい声が響き、児童が真剣に聞き入っています。声の主は、読み聞かせボランティアの倉口さん。倉口さんは6年ほど前に知り合いの方より、読み聞かせボランティアがあると聞き、元々子供たちに絵本を読む事が大好きだったこともあり読み聞かせボランティア団体「親オニの会」に入ったそうです。現在、親オニの会は15名で構成されており、毎週数名の方が小学校に読み聞かせに参加しているそうです。倉口さんは「子供たちには難しく考えず、聞いて楽しんでくれたらいい。少しでも何か感じ取ってくれたら。」と笑顔で話してくれました。

（あったかふれあいセンターまんまる 出来）

「親オニの会」の継続的な読み聞かせ活動が評価され、伊東忠記念財団 子ども文庫助成事業によりたくさんの絵本や紙芝居が増冊できる予定です。楽しみですね♪

上ノ加江・矢井賀地区「上ノ加江読み聞かせ」

上ノ加江・矢井賀地区では4名のボランティアさんが読み聞かせの活動をしています。これまでは、小学校や保育園で活動をしていましたが、子どもだけでなく高齢の方に向けて活動を広げていこうと動き出しました。12月の認知症カフェ「にこにこぼちぼちカフェ」の参加者からは「自分が子育てしていたころを思い出した。」「また来て絵本を読んでほしい。」ととても好評で喜んでもらっています。今後はメンバー後任の育成も必要に思っています。

（あったかふれあいセンター寄り家 吉岡）



大野見地区「おおのみ読み語り」

大野見保育所では、読み語りのみなさんが来てくれる日を子ども達がわくわくしながらとても楽しみにしています。この日も絵本に向かって指差しをしたり、読み手の田上さんや神明さんの呼びかけに元気よく返事をしたりと楽しそうな声が聞こえます。大野見では、毎月第1・3水曜日の午前中に8名のメンバーが交代で、保育所や小学校への読み聞かせを行っています。メンバーは当日までに本を選び、自宅で練習をしてから本番に臨みます。代表の西岡さんにお話を伺うと、小学生からお礼の手紙をもらうことや長く活動が続ける中で子ども達の成長が楽しみや励みになっているとのことでした。以前より子ども達の数減ってきているけれど、楽しみにしてくれている子ども達がいる間は続けていきたいと話してくれました。

（あったかふれあいセンターほのぼの大野見 池田）

